管掌部門の異なる複数システムのメインフレーム脱却
～安定稼働実績を踏まえた第２弾移行プロジェクト～

モダナイゼーションフォーラム2026

みずほ銀行

プラットフォームエンジニアリング部
登壇者：埴岡　穣

2026年11月12日

ともに挑む。ともに実る。
MIZUHO

© 2026 Mizuho Bank, Ltd.

はじめに

© 2026 Mizuho Bank, Ltd.

自己紹介

■ 氏名
　埴岡　穣（はにおか　みのる）

■ 来歴
　2016年 みずほリサーチ＆テクノロジーズ株式会社入社
　2026年 株式会社みずほ銀行（会社統合）所属

■ 主な役割
　お客さま向けＩＴ事業
　　複数お客さま向け計算基盤のシステム維持・管理

■ 本日の紹介事例における役割
　リプラットフォームにおけるテスト環境の設計・構築



© 2026 Mizuho Bank, Ltd.

本日ご紹介したいこと

① 第２弾移行プロジェクト開始するうえで、当社が直面した課題とその対応

② 製品機能を活用した工夫

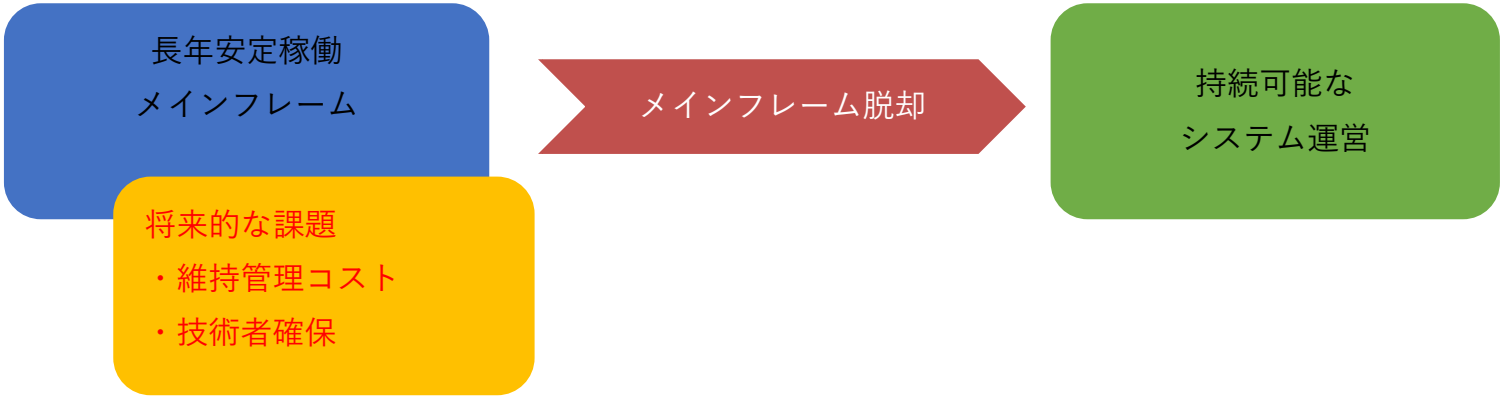
© 2026 Mizuho Bank, Ltd.

1. メインフレーム脱却への取り組み背景
2. 第1弾移行プロジェクトの完了と第2弾移行プロジェクトに向けて
3. 第2弾移行プロジェクトで直面した課題
4. 業務間調整を解消したマルチリージョン構成
5. 移行完遂によるメインフレーム脱却の実現
6. プロジェクトで得られた知見

© 2026 Mizuho Bank, Ltd.

旧みずほリサーチ＆テクノロジーズ株式会社では長年メインフレーム上で安定稼働を続けてきました。
一方で、維持管理コストや技術者確保といった将来的な課題も見据える必要がありました。
そのため、安定稼働という強みを維持しながら、将来にわたり持続可能なシステム運営を実現する取り組みとして、メインフレーム脱却を推進しました。

＜安定稼働の継続に向けて＞



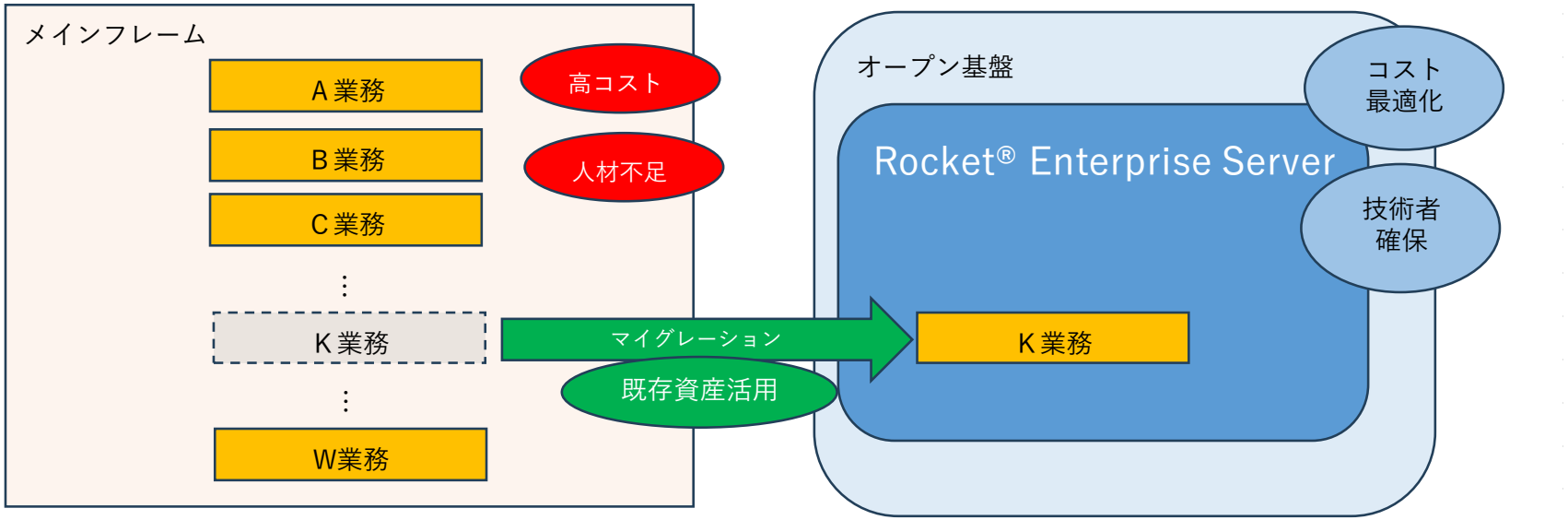
© 2026 Mizuho Bank, Ltd.

メインフレーム脱却にあたっては、まずは1業務で移行方式や運用面の妥当性を検証しました。

そこで、現行資産を有効活用できることに加え、豊富なマイグレーション実績を持つパートナー企業の支援も期待できたことから、Rocket® Enterprise Server（選定時：Micro Focus Enterprise Server）を採用しました。

そして第1弾移行プロジェクトとして1業務を対象に移行を実施し、移行方式の有効性と安定稼働を確認することができました。

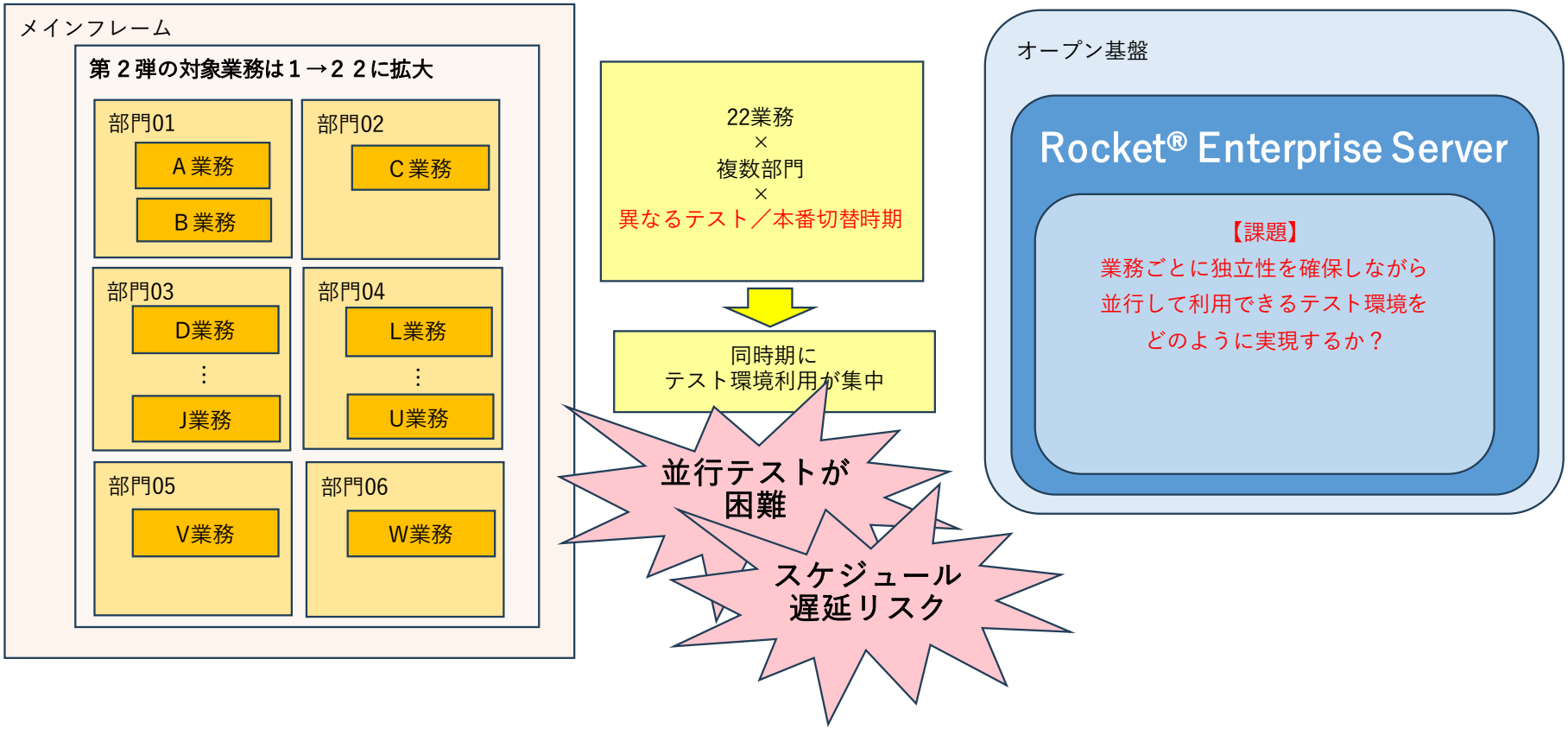
第1弾で得られた知見と安定稼働の実績を踏まえ、第2弾では対象範囲を大幅に拡大し、複数部門が管掌する22業務の移行へと取り組むことになりました。



第1弾移行で移行方式の有効性と安定稼働を確認し、第2弾では22業務へ展開

© 2026 Mizuho Bank, Ltd.

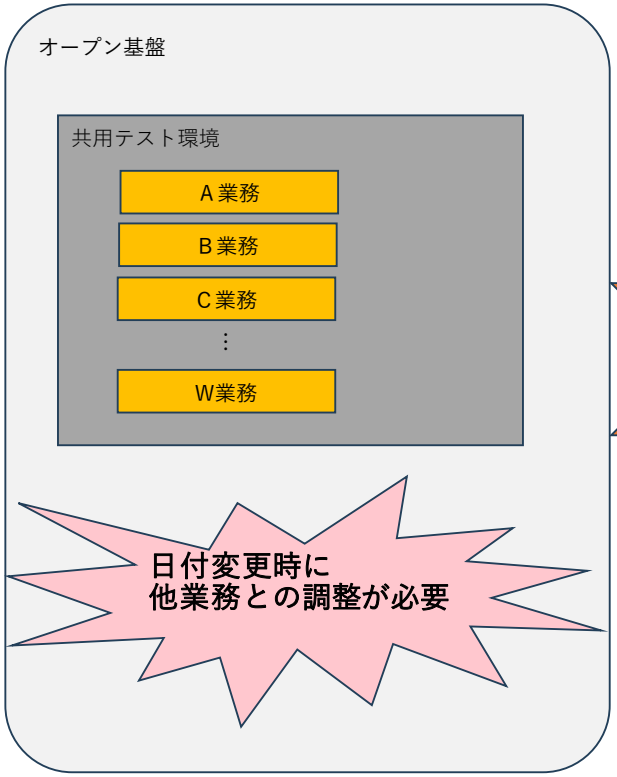
第1弾で移行方式の有効性と安定稼働を確認できたことから、第2弾では対象を22業務へ拡大しました。
しかし、22業務は複数の管掌部門にまたがり、業務ごとにプログラム数・JCL数だけでなく、テスト時期や本番切替時期も異なっていたため、テスト環境の利用が特定期間に集中し、業務間の調整負荷が懸念されました。
そのため、各業務が並行してテスト可能な環境をどのように実現するかが最大の課題となりました。



© 2026 Mizuho Bank, Ltd.

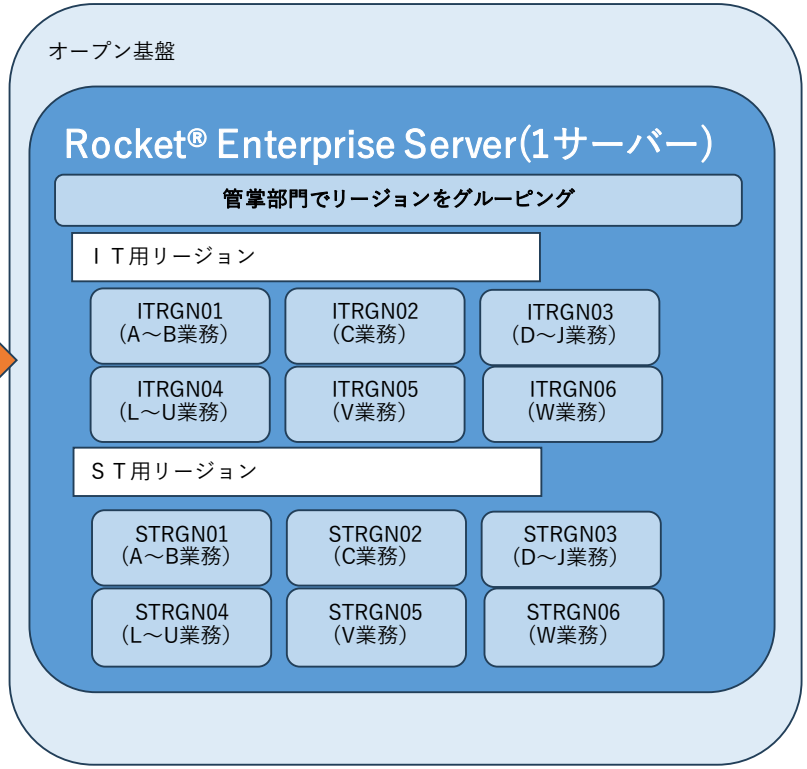
業務ごとのテスト・切替スケジュールに対応するため、 Rocket® Enterprise Serverのマルチリージョン機能を活用し、1台のサーバ上に複数の独立した実行環境を構築しました。
これにより、各グループごとに環境を専有でき、特にＳＴ環境ではリージョン単位の日付変更が可能となり、他業務との調整を行うことなく日付変更テストを実施できるようになりました。

＜従来方式＞



6リージョン構成
↓
環境を業務グループごとに分離

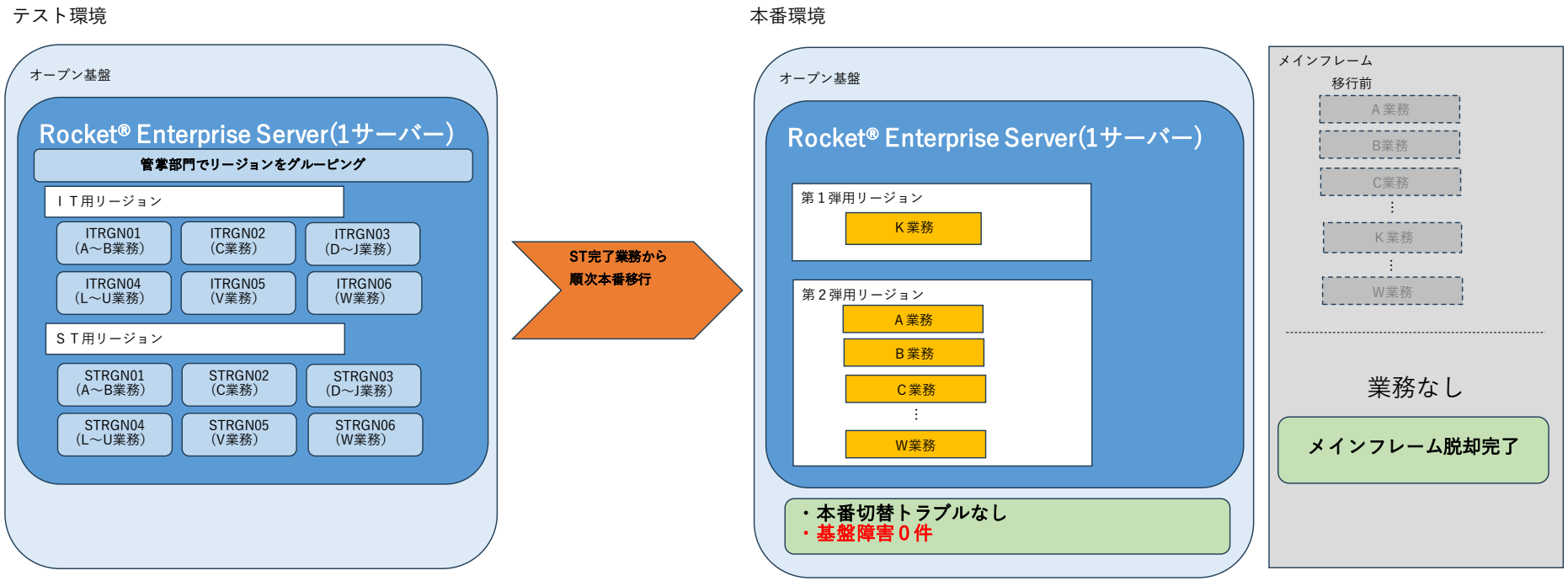
＜採用方式＞



6 リージョンへの環境分離により、業務間調整を最小化しながら22業務の並行テストを実現

© 2026 Mizuho Bank, Ltd.

第1弾で確立した移行方式とマルチリージョン構成を活用し、第2弾では22業務を段階的に本番環境へ移行しました。
2020年以降本番切替時のトラブルや基盤障害は発生しておらず、現在も安定稼働を継続しています。



**第1弾で確立した移行方式を22業務へ展開し、トラブルなくメインフレーム脱却を完遂。
2020年以降も安定稼働を継続しています。**

© 2026 Mizuho Bank, Ltd.

challenge

22業務 × 複数管掌部門 × 異なる切替時期

⇒テスト環境の競合・スケジュール遅延のリスク

Approach

Rocket® Enterprise Serverのマルチリージョン機能を活用

⇒業務グループごとに独立したテスト環境を構築

Result

22業務移行完了、切替時のトラブル0件

⇒2020年以降、基盤障害0件・安定稼働継続

Lessons Learned

メインフレーム脱却の成否は、移行方式だけでなくテスト環境設計にも左右される

© 2026 Mizuho Bank, Ltd.

ともに挑む。ともに実る。

MIZUHO